

AMDAの15年

広がる国際貢献の輪

▽下△

医療を軸にした国際民間援助団体「国境なき医師団」(本部・フランス)が今年のノーベル平和賞に決まった。世界各地で災害や紛争が多発する中で医療NGO(非政府組織)の重要性があらためて認知された。

岡山市に本部を置き、同様に医療を通じたNGOとして15年の歴史を重ねてきたAMDAの菅波茂代表に、AMDAの目指す活動や地域の国際貢献の在り方などを聞いた。

菅波茂代表に聞く

「発展途上国への支援を中心に、国境を超えて繰り返られるAMDAの活動を支えているものは。」

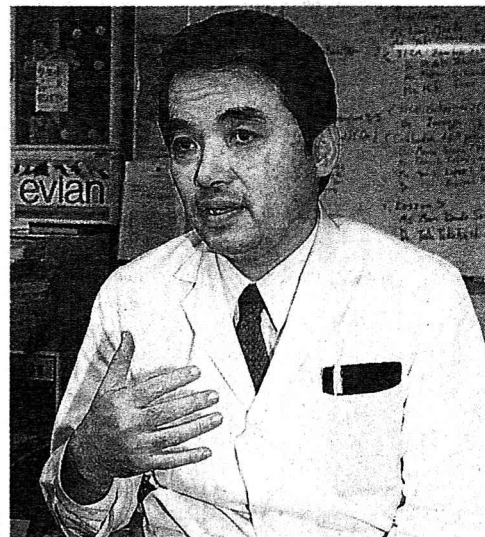
「AMDAの十五年の取り組みは、多様性の共存への挑戦といえる。多言語、部を設け、海外の会員も」

「AMDAの十五年の取り組みは、多様性の共存への挑戦といえる。多言語、部を設け、海外の会員も」

尊敬、信頼し合う世界へ

草の根の民間外交推進

「条例をつくって地域の国際化を進める岡山県加茂川町、チエルノブイリ原発事故の後遺症に悩む子供を受け入れる岡山県哲多町、」



すがなみ・しげる 昭和51年、岡山大大学院医学研究科修了。同大医学部第一内科に入り、岡山市内の病院勤務などを経て同56年、同市内に内科医院を開業。同59年、AMDA代表。広島県神辺町出身。52歳。

「設立以後、苦勞することも多かったが、支援してくる人も多かった。草の根の民間外交を旗印に、なんとか十五年やってこれたというのが実感だ。特にNGO共通のテーマでもあるが、財源の確保は今なお大きな課題だ。『国境なき医師団』のノーベル平和賞受賞は、医療NGOが評価されたという面では素晴らしい。AMDAも、活動をより幅広く理解してもらい、参加してもらうことで、活動を強化していきたい」

多文化、多宗教の人々が平和という同じ目標に向かい汗を流す。そのためには互いに尊敬し、信頼し合うことが重要だが、尊敬と信頼は、ともに苦勞する行動の中でき生まれない。平和を阻害する要因である戦争、災害、貧困に対してさまざまなプロジェクトを展開し、行動を通じて尊敬と信頼の獲得を目指してきた」

「国際舞台での活発な」

活動を続ける中、本部を岡山に置いていくことの意味はどうか。

「平成七年一月の阪神淡路大震災、あの時の岡山市民が、あんなに助けを求めた。岡山という土地の人間道援助に対する熱い思いをあらためて確信した。市民団体や宗教団体、労働の在り方は。」

「この連載は社会部・中田秀哉、日向一字が担当しました。」